

<事務局便り>

平成 14 年度炉物理部会運営委員

部会長(1 年)	竹田敏一(大阪大学)
副部会長(1 年)	大杉俊隆(日本原子力研究所)
庶務幹事(1 年)	山本敏久(大阪大学)
庶務幹事(2 年)	岡嶋成晃(日本原子力研究所)
幹事(学会炉物理部会担当企画委員)	山根義宏(名古屋大学)
幹事(学会編集委員)	山本敏久(大阪大学)
幹事(学会炉物理委員会委員長)	中川正幸(日本原子力研究所)
財務小委員会(1 年)	三澤毅(京大原子炉実験所)
財務小委員会(2 年)	北村康則(名古屋大学)
編集小委員会(1 年)	山本章夫(原子燃料工業)
編集小委員会(2 年)	奥村啓介(日本原子力研究所)
編集小委員会(1 年, HP 担当)	外池幸太郎(日本原子力研究所)
セミナー小委員会(1 年)	大杉俊隆(日本原子力研究所)
セミナー小委員会(1 年)	岡嶋成晃(日本原子力研究所)
学術交流小委員会(1 年)	小原徹(東京工業大学)
学術交流小委員会(2 年)	石川眞(サイクル機構)
学生・若手小委員会(1 年)	辻本和文(日本原子力研究所)
学生・若手小委員会(2 年)	巽雅洋(原子燃料工業)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。
また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄)：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。部会ニュースの原稿(国際学会の論文募集など)もございましたらお知らせ下さい。

連絡先：編集小委員会 山本章夫(a-yama@nfi.co.jp)

奥村啓介(okumura@mike.tokai.jaeri.go.jp)

第 17 回炉物理部会総会の報告

1. 日 時 2002 年 3 月 28 日(木) 12:00-13:00
2. 場 所 神戸商船大学コンファレンスホール(F 会場)
3. 議 事

(1) 平成 14 年度運営委員選出 (工藤部会長)

竹田部会長、大杉副部会長を初めとする、新年度運営委員候補案が紹介され、新規委員および継続委員ともに賛成多数で承認された。新規に選出された委員は、部会長、副部会長の他、岡嶋庶務幹事 (セミナー小委員兼務)、北村財務小委員、奥村編集小委員、石川学術研究交流小委員、異学生・若手小委員の計 7 名 (資料配布)。

(2) 平成 13 年度決算報告および平成 14 年度予算案 (三澤委員)

平成 13 年度の決算報告並びに、日韓炉物理国際会議事業費 150 万円を初めとする平成 14 年度の部会予算案が提示され、賛成多数にて可決された。また、日韓合同セッションの派遣補助として、35 才以下の若手に 10 万円/人、若手以外の参加者に 5 万円/人を支給することが提案された (資料配布)。

(3) 2002 年夏期セミナーについて (大杉委員)

来る 7 月 29 日—31 日、茨城県北茨城市の「マウントあかね」で 2002 年夏期セミナーを開催するべく準備中であるとの報告があった。セミナーのテーマは「Boltzmann 方程式ルネッサンス」および「炉物理トピックス」とすること、スケジュールの詳細案について紹介があった (資料配布)。

(4) 日韓協力について (竹田委員)

韓国原子力学会 (KNS) の日韓合同セッションの開催日が、数週間前に変更となり、5 月 23 日—24 日となったことが報告された (資料配布)。6 件の口頭発表の内容紹介、この後に引き続いて日韓協力について 10 分—20 分程度パネルディスカッションを行いたい旨提案があった。また、日韓協力の新しい形として、インターネットを利用した相互情報公開や、専用掲示板の設置などを進めたいとの提案がなされ、方針の大枠について合意された。核データ部会にも諮る必要があるとのコメントが出された (資料配布)。

(5) 企画委員会報告 (山根委員)

企画委員の委員改選に当たり、杉山 (北大)、森 (原研)、池上 (サイクル機構) の各氏を、また、プログラム編成委員会の新委員として、山本 (原燃工)、小原 (東工大) の各氏を部会からの候補者とした旨提案された。いずれも、賛成多数で可決された。また、部会規定の見直し作業の一貫として、若林氏を中心に原案を目下作成中であるとの報告があった。

次回の 9 月の学会 (いわき明星大学) から、学会申し込みのオンライン化を始め、しばらくはオンラインと従来法の並列で運用する予定である。できるだけオンラインを利用してほしいとの要望があった。

これまで部会単位で行ってきた国際協力に加え、学会全体で国際協力を行うべく、協力のあり方についてディスカッションする場（「日韓オーバービューセッション」）を設ける方針であることが報告された。

研究専門委員会主査、常時委員の兼任の問題については、学会規定に兼任を避けるようにとの記述があり、各自配慮をいただきたいとの要望があった（資料配布）。

(6) 編集委員会報告（山本(敏)委員）

部会から和文誌「特集」として「高温ガス炉の新展開」（主査：東工大・関本氏）を提案したが、編集幹事会で企画案が承認された。幹事会で出された編集方針へのコメントを反映しつつ、現在執筆作業が進行中との報告があった。

「炉物理の研究」第 53 号については、原稿が揃って最終編集作業に入っており、4 月中には配布できる見通しとの報告があった。また、部会報の電子文書化を検討中である。

一部の識者から、炉物理の原子力界への貢献度が低いという認識を持たれている問題について議論がなされた。今後、当部会の貢献度をアピールする方策を検討することになった。

(7) 部会懇親会について（巽委員）

恒例の懇親会を当日 6:30 より「たつよし会館」で開催することが通知された（資料配布）。

(8) その他

①ロシアの核励起レーザー開発における炉物理研究（小原委員）

次回の大会の部会企画として、ロシア・物理エネルギー工学研究所(IPPE)副所長 Gulevich 博士他 1 名による標記講演を行いたいという提案があった。なお、来日に必要な旅費は先方負担になるとのことである（資料配布）。

②2002 年炉物理部会主催国際セミナーについて（竹田部会長）

本年 10 月に開催される PHYSOR2002 に参加した人の中から、講師を招いて国際セミナーを開催したい旨の提案があった。本件の検討のためにワーキンググループを結成する（メンバーは岡嶋、三澤、小原、石川の各委員）。

③外国人非会員の論文掲載について（小林氏）

学会に寄与する論文については、無料で論文を掲載するような制度を新設するべきであるという意見・要望を学会編集委員会に提出しており、部会からも是非サポートして欲しいとの要望があった。後日、編集委員会の決定を待つて再度検討することになった。

④ 4部会合同セッションについて (岩崎氏)

「大強度陽子加速器計画の要望」という題目で、同セッションで発表した際に使用したOHP原稿が配布された。後日、発表した内容は要望書の形でまとめた後、4部会長連名でプロジェクト担当者に提出されるほか、学会誌の特集号として掲載されるので、その旨了解いただきたいとの要望があった。また、資金提供やマンパワーなどについて具体的な実験計画案を作成する必要がある、部会内に検討委員会を設置したい。委員会設置案は次回総会に諮りたい (資料配布)。

⑤ 学会への炉物理のアピールについて (竹田部会長)

編集委員会のところで述べられているように、学会誌の特集或いは解説記事として「何故いま炉物理が必要なのか」「炉物理はどのように役立っているのか」「炉物理の何がおもしろいのか」をわかりやすく解説することについて部会長が中心となり進めることが了承された。

国際会議の案内

1. *Advances in Nuclear Fuel Management III*

2003年10月に米国で開催予定です。本国際会議は、炉心管理およびそれに関連したテーマを中心に扱うもので、前回は1997年3月に米国で開催されました。今回は6年ぶりの開催となります。Reduced length paperの締め切りは2003年3月15日です。詳しくは、<http://rpd.ans.org/nfm.htm> にアクセスして下さい。

原燃工の山本が technical program committee に入っています。なにかご質問があればご連絡下さい。(a-yama@nfi.co.jp)

2. *M&C 2003*

2003年4月に米国で開催予定です。本国際会議は、主として数値計算法、ベンチマーク計算、コードの検証などを中心として扱います。前回は2001年9月に米国で開催されました。Full paperの締め切りは2002年10月21日です。詳しくは<http://meetingsandconferences.com/MC2003/> にアクセスして下さい。

3. *SNA2003*

2003年9月にフランスで開催予定です。本国際会議は、高性能計算(high performance computing)やシミュレーション技術などを中心として扱います。前回は2000年9月に東京で開催されました。Abstractの締め切りは2002年11月30日です。詳しくは、<http://sna-2003.cea.fr> にアクセスしてください。

編集後記

今回の特集記事は、かなり昔から考えていたもので、今回、炉物理部会の編集委員をするにあたって、ようやく実現できた。書いていただいた原稿はどれもこれも面白く、「血の通ったエピソードはおもしろいなあ」との感想を抱いたのであった。今回原稿を依頼したのは、日本で炉物理に関係している方々のうち、ごく一部である。炉物理界すべての **Eureka!** 体験はどの程度のものなのか、すぐには想像できないが、今後「面白い炉物理」、「アクティブな炉物理」に大きな貢献をすることができるのではないかと考えている。

(編集小委員会：山本章夫)